運転手の健康

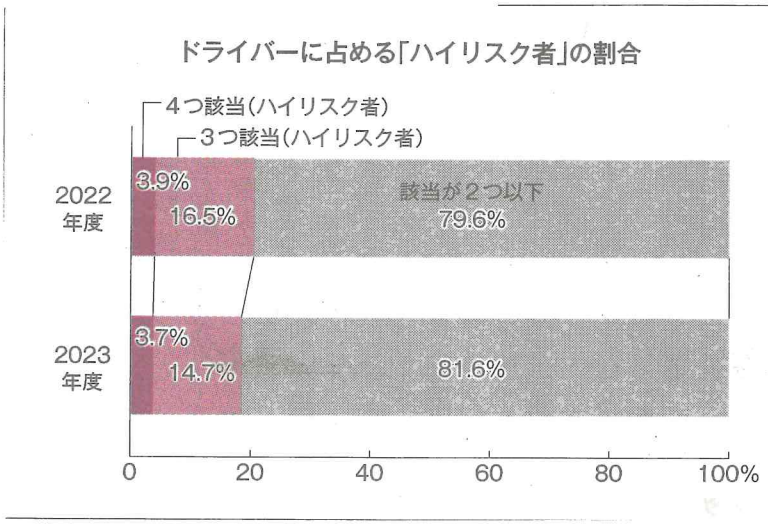
20%が「高リスク者」
23年度2ポイント増加

ドライバーの健康状態がじわり悪化――。ヘルスケアネットワーク（＝OCHIS、武田裕理事長）の「運輸ヘルスケアナビシステム」の2023年度実績によると、肥満、高血圧、脂質異常、高血糖のうち3項目以上に該当する「ハイリスク者」は、ドライバー職で全体の20・4%となり、前年度より2・0㌽増加した。健康起因事故を防ぐためにも、ドライバーの健康管理の重要性が改めて浮き彫りとなった。

運輸ヘルスケアナビシステムは、全日本トラック協会の受託事業として定期健康診断の事後フォローを支援している。7年目となった23年度は159社8757人を分析し、過去最高の利用となった。年代別では50代が最も多く全体の36・7%、次に40代27・6%、60代15・1%の順で、平均年齢は49・3歳だった。

ドライバー職のハイリスク者のうち、全4項目に当てはまった人は全体の3・9%で前年度比0・2㌽増加。3項目該当は16・5%で同1・8㌽増加した。

肥満と判断されるBMI値25以上の割合は、全体の42・5%を占め、同0・7㌽の増加。このうちBMI値30以上は10・2%で横ばい。BMI値25～30未満は32・3%で同0・7㌽増加した。

また、睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査で精密検査が必要と判断された人を分析すると、BMI値25以上の肥満者が全体の67・8%と半数を大きく超えた。肥満以外の高血圧や脂質異常を抱えるハイリスク者が多いことも分かっている。

ヘルスケアネットワークの平田範江マネージャーは5月22日に開かれたセミナーで「生活習慣の早めの改善や、健康管理を徹底して健康起因事故防止につなげてほしい」とした。（遠藤　仁志）